

山形大学 医学部

人に優しく、新しい医療提供の姿を追い求めて。

世界の最先端で、 重い出血病と戦う！

超高齢社会の病気

わが国では、世界中で一番早く高齢化が進行しており、高齢者が様々な病気にかかりやすくなっています。さて、一度身体に細菌が入ると、その細菌に対して「抗体」という対抗物質が作られて、二度目からは同じ細菌は速やかに除去されます。ところが、年を取ると自分のタンパク質に対して抗体が作られてしまい、その抗体が作用して、そのタンパク質の働きが抑制されたり、速やかに除去されたりすることがあります。

重い症状の出血病

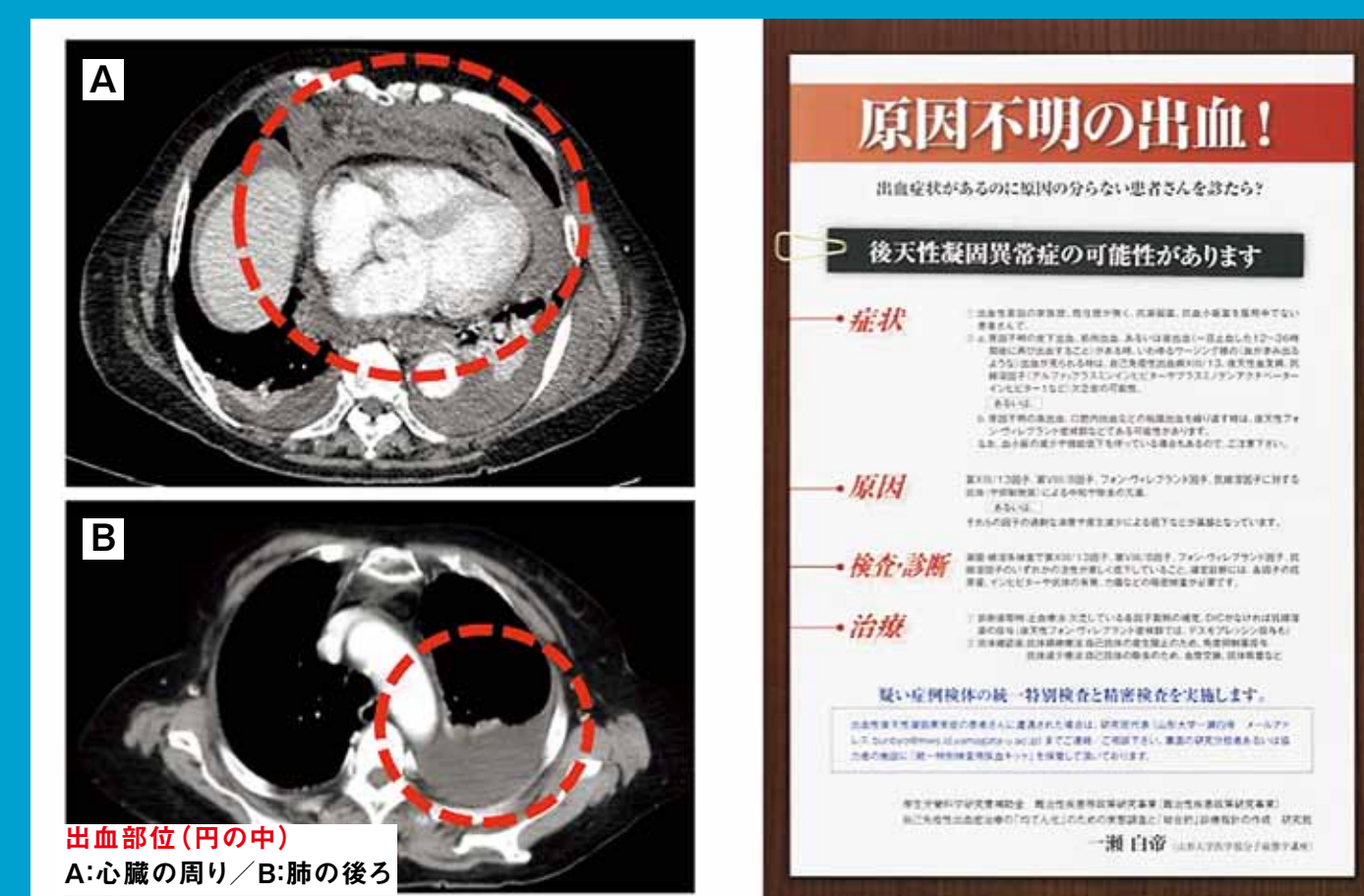
ケガや手術などの際に、出血を止めるために必要な「凝固第13因子」という自分のタンパク質に対して抗体が作られると、皮膚の下や筋肉、頭や腹の中にも出血して、死に至ることがあります。この病気を「自己免疫性出血病13」と名付けました。

国と協力した取り組み

私たちは、12年前にこの病気の患者さんを見つける以来、国から補助金をいただき、国内の患者さんの人数・事例調査、検査・診断方法の開発、出血を止める方法や抗体をなくす方法の開発・提案等の活動を行っています。その結果、2年前には、この病気の出血に効果のある薬が国から認可され、国内で使用可能となりました。さらに、今年7月からは、この病気が公的医療費助成対象の指定難病に追加されることとなりました。これからも、なぜ「凝固第13因子」というタンパク質に対して抗体が作られるのか、原因究明に努めたいと思います。

山形大学 教授

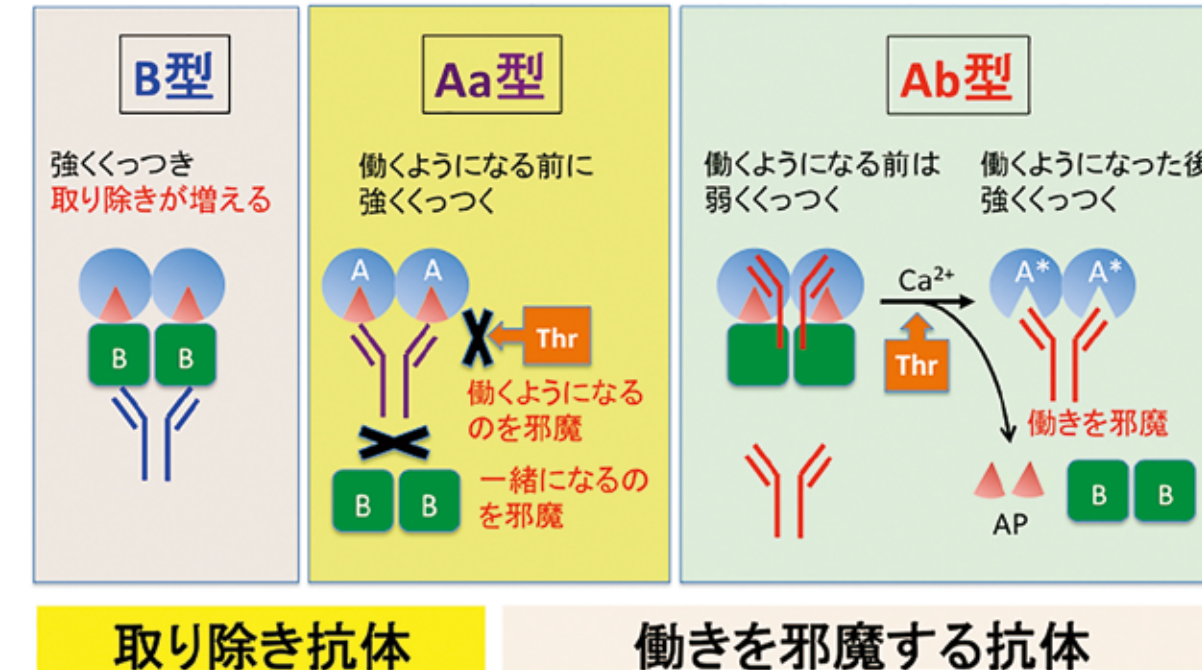
いちのせあきただ
一瀬白帝



(左) ある患者さんで実際に起きた色々な身体部分への出血症状
(右) 毎年、全国の約2,000の病院に送っている出血病調査のお知らせ

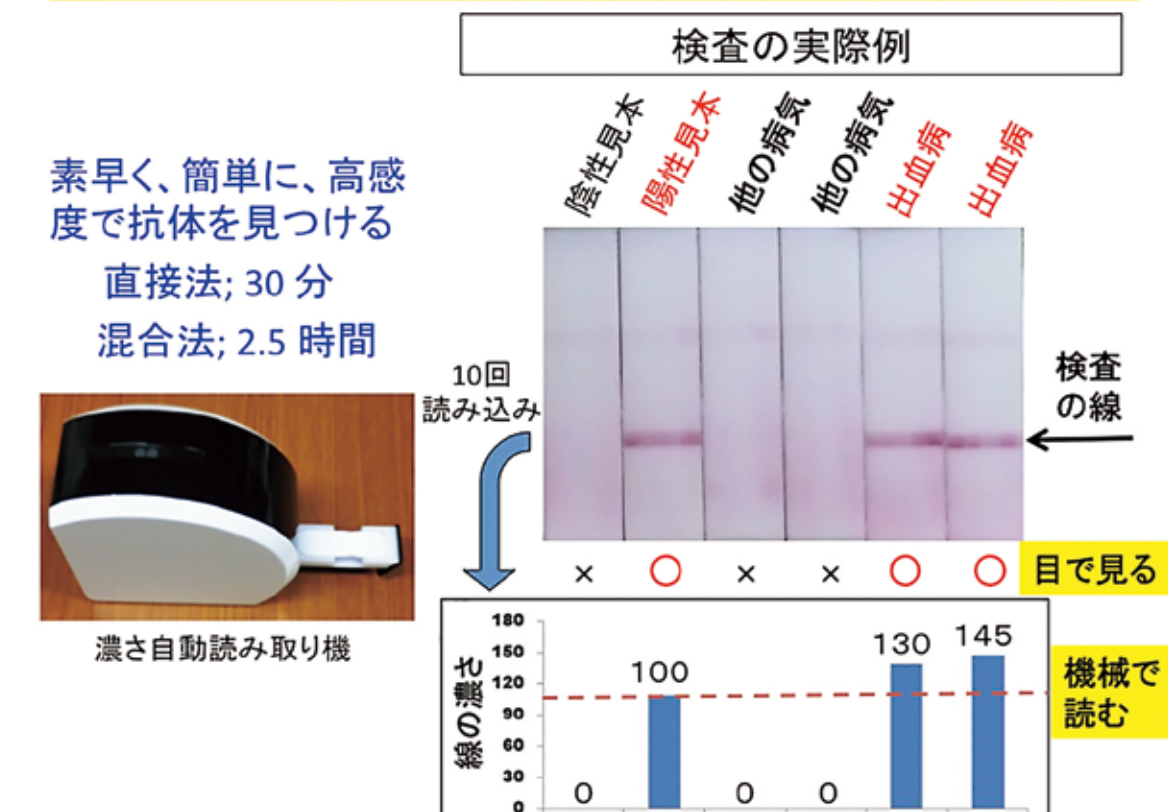
第13因子に対する抗体の悪い影響

第13因子タンパク質に悪い影響を与える抗体には、3種類ある



この重い症状の出血病を引き起こす抗体の悪い影響

素早く抗体を見つける新しい方法の開発



悪い影響のある抗体を素早く見つけるための新しい検査方法